

睡眠中の誤嚥・吸込みの検査法を開発

来る11月10日の第9回新潟睡眠呼吸障害研究会に報告します

2012年11月

睡眠時呼吸症候群患者は睡眠中の誤嚥や吸込みが多く、その結果として、高齢者の死亡原因となる誤嚥性肺炎を繰り返すことがあります。去る8月7日に第一回新潟県歯科衛生士会行政部門研修会の講師として「睡眠呼吸障害と誤嚥性肺炎」という題で講演をしました。その際に、目覚めているときはともかく、睡眠中のことは全く調べられていないと、この分野を担当する方々からご意見をいただきました。そこで、当院で行われた睡眠検査をつぶさに検討し、誤嚥の証拠となる所見を発見しました。具体的には、嚥下の準備段階は呼吸に変化はなく、嚥下により一過性の中枢性無呼吸が起こり、誤嚥では数十秒の中枢性無呼吸が生じることがわかりました。

この成果を研究会に報告するとともに、誤嚥性肺炎の早期発見や予防に繋がりたいと思います。

